

最新の動向

海事局検査測度課
危険物輸送対策室
平成30年4月

貿易手続等に係る官民協議会

「未来投資戦略2017」(平成29年6月9日閣議決定)(抜粋)

貿易手続に関し、貨物の滞留時間の短縮化等を実現するための全体最適化について、官公庁や民間事業者が一堂に会して制度面や技術面など総合的な観点から検討する官民協議体を今夏までに立ち上げ、速やかに検討を開始し、本年度中に結論を得る。

海上コンテナ貨物の輸出の一般的な流れと考えられる論点

＜港湾を利用する物流は各工程で分断＞

・各関係者は各部門のみの最適化に注力

- (1) 貨物ステータス(手続及び位置情報)の関係者間での共有
- (2) CYゲートでのトラック渋滞
- (3) CYゲートオープン時間が限定的
- (4) CY(コンテナヤード)カトルールに基づく貨物搬入

＜輸出入共通の論点＞

- (5) コンテナの多段積み
- (6) フリータイムによる貨物の滞留

貿易手続等に係る官民協議会

取りまとめ(抜粋)

第1 はじめに

2. 協議会の検討範囲等

2) 協議会における指摘事項

これら意見のほか、コンテナ総重量確定の効率化や貨物の入港からCY搬出までの短時間化等についても委員から発言がなされた。

第4 今後の検討課題

1. 港湾のIT化

上記第2及び第3で示したCYカットタイムの短縮と港湾における渋滞の緩和を推進するに際して、AIターミナル等各港湾の状況に応じた適切なシステムを導入することが期待される。しかし、貿易手続等の全体最適化の視点では、これらの取組だけでは不十分である。近年飛躍的に進歩したIT技術を活用し、貿易手続等に関する情報の電子化と関係者間でのデータ利活用の推進等、手続を含む港湾の全体最適化について検討を深め社会実装につなげることが必要である。

2. その他今後の課題

協議会においては、CYカットタイムの短縮と港湾における渋滞緩和を中心に議論を行ってきたところであるが、コンテナ総重量確定の効率化、貨物の入港からCY搬出までの短時間化、また、渋滞による運送事業者の海上コンテナ離れ等も指摘されており、今後、検討課題としていくことが考えられる。